

大地震発生時の避難行動の流れ

在宅避難

地震発生

その場にあった身の安全

- 身を守る
- 出口の確保

すばやく火の始末

- 火が出たら大声を出して周囲に知らせ協力して初期消火


となり近所の助け合い

- となり近所に声をかけ合い助け合う

自宅で生活できる場合

まずは在宅避難の検討をお願いします

自宅建物が火災や倒壊の危険がないときは、あえて避難の必要はありません。(状況に応じてください)
 自宅で過ごせるよう備蓄品の確認、家具転倒防止など自宅の備えを進めましょう。




在宅避難の場合でも地域防災拠点で物資や、情報の受け取りが出来ます。

地域防災拠点


市内1箇所でも震度5強以上の地震を観測した場合に開設

倒壊や火災により自宅で生活できなくなった場合

家屋の倒壊などにより自宅にとどまれない人が一定期間避難生活を送る場所です。
 区内の市立小・中学校26か所を指定しています。
 地域防災拠点には、防災備蓄庫を設置し、食料や防災資機材を備蓄しています。また、家族や知人の安否情報などの情報受伝達の拠点となります。
 地域防災拠点の運営は、地域住民による相互扶助を基本とし、避難してきた人全員が協力して行います。



防災備蓄庫
(食料・水など)



避難場所
(体育館など)

(金沢区: 26校)

地域防災拠点の役割

- 家が倒壊して自宅にとどまれない人の一時的な生活場所
- 食料、水、救援物資などの配布場所
- 生活情報や家族・知人の安否情報の受発信拠点

一時的な避難をする場合

いつとき避難場所

近所の公園・空き地など

周囲の様子を見たり、次の避難場所(広域避難場所、地域防災拠点など)に移動する場合に地域住民が集結する場所です。自治会・町内会等が事前に決めておきます。

大火災の場合

広域避難場所

大火災時に避難する場所

地震に伴う大火災が発生し、延焼拡大した場合、その熱や煙から生命・身体を守るために一時的に避難する場所です。

避難時の心得

- 避難の前に火元の確認
- ブレーカーを落とす
- 外出の家族のために避難先をメモ
- 荷物は最小限に
- 避難は徒歩で自動車は厳禁
- 避難所への移動は、塀ぎわ・狭い道避ける



津波からの避難

高台へ避難

いち早く高台に避難しましょう。遠くに逃げるより高い場所に逃げることを心がけてください。



建物へ避難

建物に避難する場合は、鉄筋コンクリート造等の地震の揺れによる被害のない高い建物のより高い階へ避難しましょう。



気象庁からの津波注意報や津波警報が解除されるまで、海岸や河口に近づかないようにしましょう。

※津波は川をさかのぼって内陸に到達する可能性があります。
 ※一斉に車で避難すると渋滞が発生し、逃げ遅れてしまう可能性があるため車は使わず避難しましょう。